

エスペラントは心の国境を消すことばです

Organo de Hokkajda Esperanto-Ligo

Heroldo de HEL

N-ro 157

Januaro 2015

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

[Enhavo/目次]

- ・表紙、Enhavo/目次 P. 1
- ・2014 年『マチなか×NPO～ミニシアター』に参加(横山) P. 2
- ・2014 年北海道ザメンホフ祭 会計報告 P.3
- ・2014 年北海道ザメンホフ祭の報告/Pri La Hokkajda Zamenhofa Festo en 2014/Raportas YOKOYAMA P. 4
- ・エボラ出血熱/Ebola malsano (Ebola hemoragia febro) P. 6
/翻訳:横山裕之 P. 9
- ・冊子『「軍隊慰安婦」元日本兵ら 10 人の証言』普及のお願い P.10
/札幌郷土を掘る会
- ・Danke ricevitaĵ P.11
- ・La unuafoja eksterlanda vojaĝo! (2) P.12
/ Skribita de OMO
- ・LA GEOPARKO LAGO Tôya kaj Monto Usu (2) P.14
/洞爺湖有珠山ジオパーク (2) /Sawaya Yûiti
- ・Protokolo de la 2-a Komitato Kunsido de HEL/Kasjaro 2015 P.19
2015 年度 第2回北海道エスペラント連盟委員会 議事録
- ・[編集後記/Redaktanto parolas] P.20

2014 年『マチなか × NPO ～ミニシアター』に参加

Raportas YOKOYAMA



2014 年 11 月 23 日(日)チ・カ・ホの北大通広場(西)会場でイベント開催。北海道エスペラント連盟(HEL)も参加しました。12:20～12:40 は星田さん、14:20～14:40 は宮沢さんがミニシアター、動画を流して説明しました。星田さんの方は、川崎エスペラント会、エスペラント講座、L プラザで HEL のインタビュー形式で一昨年放映したリストリームがその内容で、宮沢さんの方は、SAT が制作した ESPERANTO という映画で 12 月 8 日に北海道クリスチャンセンターで 18 時半から開催する北海道ザメンホフ祭の告知もしました。HEL、北海道エスペラント研究会、北海道自由エスペラント協会で共同開催します。佐藤隆介さんも顔を出してくれました。来場者 18 名、スタッフ 12 名でした。





2014年北海道ザメンホフ祭 会計報告

2014年12月9日

北海道ザメンホフ祭 会計 川合由香

会場使用料（映写設備含む） 10 226円・・・(a)（宮沢直人氏立て替え）

参加費収入

学生5名： $300 \times 5 = 1 500$ 円

一般16名： $500 \times 16 = 8 000$ 円

計 9 500円・・・(b)

(a) - (b) = 726円・・・(c)

赤字はHELとLEAHで等分して埋めることになっていた（11月16日）ので、

$(c) \div 2 = 363$ 円

これを双方で引き受けた（HELの分は川合立て替え）。

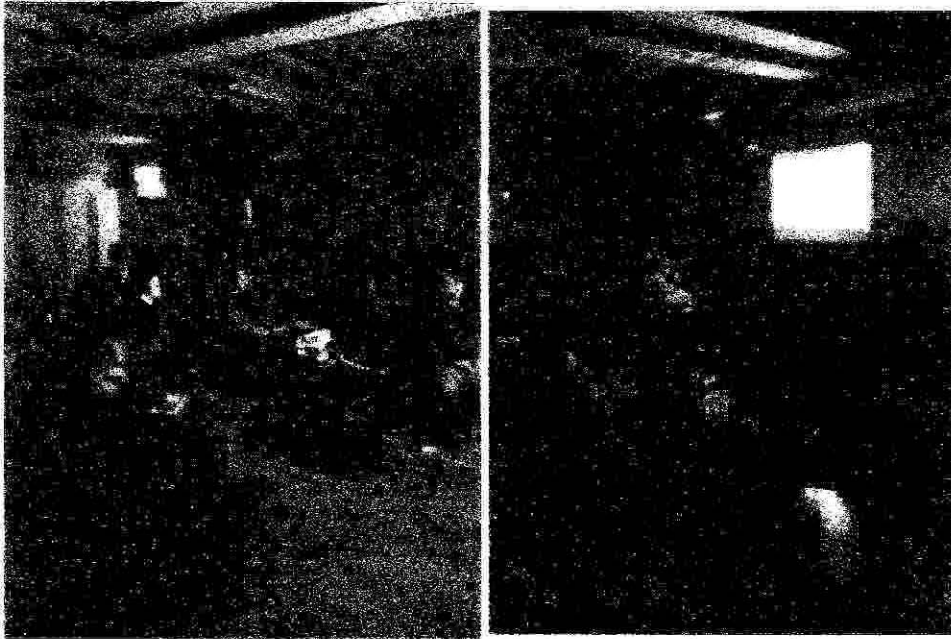
以上

2014 年北海道ザメンホフ祭の報告

- 北海道 E 連盟、北海道自由 E 協会及び北海道大学 E 研究会の3者による合同ザメンホフ祭の報告 -

Pri La Hokkajda Zamenhofa Festo en 2014

Raportas YOKOYAMA



2014 年 12 月 8 日 18 時 30 分より、北海道クリスチャンセンター(札幌市)において、北海道 E 連盟・北海道自由 E 協会・北海道大学 E 研究会の3者で合同ザメンホフ祭(2014 年北海道ザメンホフ祭)を共同開催しました。

SAT(国民性なき全世界協会)が制作したドキュメンタリーフィルム「ESPERANTO」を鑑賞し、その後、出席者の中でエスペラントに今までどう関わってきたのか、年配者と学生等の間の異なる世代間の意見交換をしました。

E を学ぶきっかけとして、年輩者からは「内在思想」などのエスペラントの理念の声が上がる一方、時代とか世の中の雰囲気も関係があると考えられますが、学生の方は理念重視の若手はほぼ皆無で、E に関わる若者(他大学の学生)との交流が楽しいという意見がありました。

開催の目的である E-isto の世代間交流がかなり実現し、お互いの理解を深めていったと思います。

参加者は E-isto 以外の人も含めて 21 名で、市民活動をしている一般市民の参加もありました。

(Resumo)

Okazis Hokkajda Zamenhofa Festo en la urbo Sapporo en 2014/12/8.

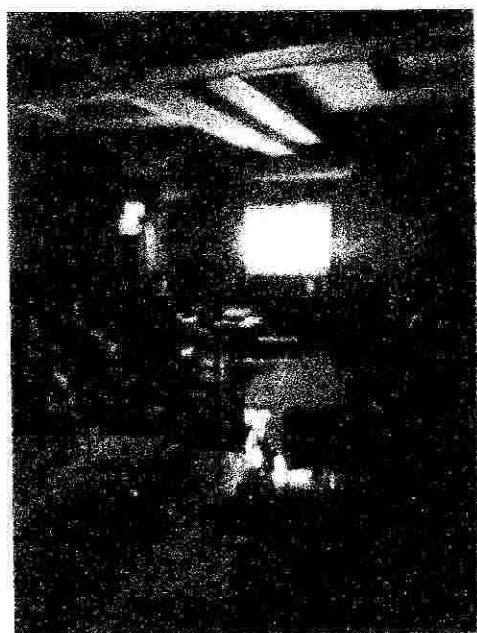
Ni vidis la kinon "Esperanto" farita de SAT.

Post tio ni interŝanĝis opiniojn unu aliajn inter malsamaj generacioj.

Iu studento opiniis, ke junuloj nur ĝuas interŝanĝojn sen rilato al esperanta idealo.

Ni preskaŭ realigis celon de la Festo, t.e. interŝanĝon inter malsamaj generacioj.

Partoprenanto estis 21 homoj, kaj inkludis ĝeneralan civilulojn.



エボラ出血熱

Ebola malsano (Ebola hemoragia febro)

翻訳: 横山裕之
Trad.: JOKOJAMA Hirojuki

エボラ出血熱は、原因がエボラウイルスで、西アフリカでまん延しています。

La ebola viruso kaŭzas Ebolan malsanon. La malsanuloj multigas tra la tuta okcidenta Afriko.

スペインやアメリカへの帰国者で感染した人がいました。

Troviĝis infektitoj de Ebola malsano inter revenintoj el la okcidenta Afriko al Hispanio kaj Usono.

感染した人からうつされた人もいました。(二次感染)

Kaj troviĝis la novaj malsanuloj infektitaj de jamaj infektitoj. (La dua infekto)

エボラ出血熱は、インフルエンザと違い、咳をしても感染しづらい。

Malsame je gripo, infektado je Ebola malsano malfacile okazas per tusado de la malsanuloj.

患者の体液に直接触れたり、注射針に触れたりすると感染します。

Infektadon al Ebola malsano kaŭzas rekte tuŝi al humoro de la malsanulo aŭ erare piki korpon per uzita injekta nadlo.

一般的にウイルスが付いて血管の中に入ると感染します。

Ĝenerale kiam la viruso alĝuiĝas al korpon kaj eniras en sangotubon, infektado de la malsano efektiviĝas.

一般的に症状のない患者からは感染しません。

Ĝenerale oni ne infektiĝas de malsanuloj sen simptomoj.

空気感染もしません。

Ankaŭ aero ne peras la viruson por infekto.

また、流行地では、エボラウイルスに感染した患者の死体、オオコウモリ、サル、ウシ科のアンテロープなどの感染した死体やその生肉に手で触れるとエボラウイルスに感染します。

Kaj en la disvastigejo oni infektiĝas je Ebola malsano, se oni tuŝas per la manoj mortintajon de la malsanuloj, kadavron kaj krudan karnon de infektitaj verperito, simio kaj la bovedoj "Antilopon".

エボラ出血熱が国内に入り込まないように気を付けます。

La japana registaro antaŭzorgas pri invado de la malsano en Japanion.

感染しておおよそ21日のうちに、突然の発熱、頭痛、倦怠感、筋肉痛、咽頭痛等の症状がでます。

En ĉirkaŭ 21 tagoj post infekto oni ekhavas subitan ekfebron, kapdoloron, laciĝon, muskolan doloron, faringan doloron kaj aliajn.

次いで、嘔吐、下痢、胸部痛、出血（吐血、下血）等の症状が現れます。

Post tio, aperas simptomoj jenaj: vomo, lakso, brusta doloro, sangumo (hematemezo, meleno) kaj aliaj.

現在、エボラ出血熱に対するワクチンがないため、患者の症状に応じた治療を行います。（対症療法）

Ĉar vakcino kontraŭ Ebola malsano ankoraŭ ne ekzistas, oni kuracas la malsanulojn laŭ iliaj simptomoj. (Kontraŭsimptoma terapio)

ギニア、リベリア、シエラレオネのような発生国に滞在した場合には検疫所に申告しなければなりません。

Se oni restadis en la elfontigantaj landoj sub propaĝiĝo de la malsano kiel Gvineo, Liberio kaj Siera-Leono, oni devas deklari tion al kvarantenejo.

発生国からの帰国者でエボラウイルスへの感染が疑われる方がいた場合、安心できるように感染症指定医療機関に搬送します。

Se troviĝos homo kun ebleco esti infektita je Ebola viruso inter revenintoj al Japanio el la landoj supraj, tiu estos sendata al la medicina institucio desegnita por infektaj morboj, por ke ĉiuj trankviliĝu.

エボラ出血熱に感染した疑いのある人を医療機関が国立感染症研究所に知らせると、国立感染症研究所は迅速に検査を行い、感染したかどうかわかります。

Kiam la medicina institucio informas la Nacian Instituton de Infektaj Morboj pri eltrovo de homo kun ebleco de infektiĝo je Ebola malsano, la instituto juĝas, ĉu tiu estas infektita, per rapida ekzameno.

感染していることがわかれば、患者は感染症指定医療機関に運ばれ、感染防御対策の施された病室で公費で治療されます。

Se la ekzamenito estas infektita, tiu estas sendita al la medicina institucio desegnita por infektaj morboj kaj kuracita publikakoste en specifa malsanulĉambro kontraŭ plivastiĝo de la viruso.

入国から21日までに、突然の発熱や頭痛などの症状がみられた場合は、速やかに電話にて最寄りの保健所又は検疫所に連絡しなければなりません。

Se oni ekhavas subitajn febron, kapdoloron kaj aliaj en 21 tagoj post

enlandiĝo, tiuj devas telefone informi najbaran sanitarejon aŭ kvarantenejon pri siaj simptomoj.

北海道でのエボラ出血熱の患者数は、次のとおりです。

La nombro de Eboraj malsanuloj en Hokkajdo vi povas vidi en jena retpaĝo:

<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/101/data.html>

まだ日本では患者の報告はありません。

En Japanio la malsanuloj ankoraŭ ne estas eltrovitaj.

北海道では、エボラ出血熱の患者が出ると感染症指定医療機関である札幌市立病院にある感染症病棟へ運ばれます。

En Hokkajdo se aperas malsanulo de Ebola malsano, tiu estas sendita al la ĉambraro de la medicina institucio desegnita por la infekta morbo en la Municipa Ĝenerala Hospitalo de Sapporo.

この記事は、アイヌ語新聞「アイヌタイムズ」の第61号（近日発刊）に投稿した「エボラ出血熱」の一部を修正し、エスペラント訳したものです。前回同様、エス訳はHELの川合さんなどに多大なご協力をいただきました。この場をお借りして、関係各位に深謝いたします。

このエス文につきましては、HELホームページ

http://www.hokkaido-esp-ligo.jp/ip/index_j.htm

<http://www.hokkaido-esp-ligo.jp/JOKE/maarti.htm>

及び私のアイヌ語投稿文の個人的ページ

<http://www.geocities.jp/aynuitak/>

http://www.geocities.jp/aynuitak/ATkana_utf8.htm

にも掲載を予定しております。

ついでながら、アイヌタイムズをご購入していただける方がいらっしゃいましたら、お声をかけていただけると大変うれしく思います。

（購読連絡先：〒055-0101 北海道平取町二風谷80-25 萱野志朗宛）

電子メール：ainuitak@yahoo.co.jp（横山・中継ぎ連絡先）

北海道エヌペラント連盟 様

冊子『「軍隊慰安婦」元日本兵ら10人の証言』普及のお願い

日ごろ、何かとお世話になり、感謝申し上げます。

札幌郷土を掘る会はこの度標記の冊子を発行しました。およそ20年前の戦争体験聞き取り証言の中に、元日本兵9人と韓国人教師1人の証言、「あまりにも気の毒なので」と勇気を持って語ってくださった良心の証言がありました。

過去から続く安倍首相の言動や昨年からの一部NHK経営委員の発言、それに橋下大阪市長の否定的、あるいは聞くに耐えない侮辱的発言がありました。

韓国の「ナヌムの家」にはまだ十数名の「慰安婦」にされた方々が暮らしています。15歳前後に騙されたりして連れてこられ、慰安所で強要され、戦後は現地に捨て置かれ、その後の人生を思うとき、心からお詫びし、償わなければなりません。そのためにはその真相を語りついでいく必要があります。

そうした歴史的事実を少しでも広めたい、と9月20日に発行しました。

どうか、貴団体から普及していただきますよう、お願い申し上げます。尚、見本・贈呈として同封いたしました。何かとお忙しい中、ご覧くだされば幸いです。

(代金は、同封の郵便振込み用紙にて後納でお願い致します。)

・定価300円(税込)

・A5判86p

・A:購入、B:預かり

・条件:5冊以上は定価の80%(240円)、郵送料不要。

預かり(11月まで)の場合の残部送料は着払い。

~~*注文は、同封の「注文葉書」にてお願い致します。~~

2014年10月

札幌郷土を掘る会 小松豊

T・F 011-785-2622

* La Informilo de NEC/センター通信・第 274 号、2014 年 11 月 12 日 名古屋エスペラントセンター(NEC)発行、B5 X13 頁のうち E 文 6 頁半。

FRUKTOPLENA DUA VIZITO AL JAPANIO/Orkido

Pham Mai Lan はハノイの Mai Lan さんの名古屋訪問記。写真は山田義。「読書会その他についてのメモ/伊藤俊彦」、「Limulo kaj Ties Utilo Nuntempa/IKAI Y.」、「Pri Papo Francisko/Tos^hi Hiko Ito」、など。

* NOVA VOJO :N-ro 512 decembro 2014, EPA(エスペラント普及会)、A5X34 頁のうち E 文 11 頁。「出口なお・出口王仁三郎の生涯」は連載 16 回目、王仁三郎が『少年喜三郎』として登場。昨年 10 月から連載の「エスペラントと私と/田中雅道」は最終回。

* Novaj^hoj Tamtamas; n-ro 299/decembro 2014, Internacia Gazet de Jokohama Esperanto-Rondo(JER, Hama-Rondo)A4X4 頁、エスペラント文。2 頁の Eroŝenko Deklamota!/Sibayama Zyu n^o iti はエロシェンコの生涯と作品についての解説。VASILI J EROŜENKO-JAPANA PO ETO/Tatyana Auderskaya は連載 2 回目。

* La Suno N-ro 101 山梨エスペラント会(JES)機関誌 2014 年 12 月 1 日。B5X24 頁のうち E 文 12 頁。JES と会員の活動記録/長澤精子、第 101 回日本大 E 会参加記/工藤尚に続いて eseoj 数編。

エロシェンコ童話の試訳/引田秋生 は彼の日本語作品「無宗教者の殉死」の試訳例。

* La Tamtamo; 第 471 号、2014 年 12 月、横浜エスペラント会(JER)発行。A4X6 頁、日本文。2015 年ハマロンド総会、忘年会などの予告、「報告」にしばらくぶりだった由比忠之進さんのお墓参り。「学習会などの予定」によると 1 月後半の催しはザメンホフ祭も含め 9 件、1 月は 23 件。

* La Vulkano: N-ro 174 Decembro 2014, 福岡エスペラント会、B5X12 頁のうち E 文 5 頁。La unua vojaĝo al la la do en suda hemisfero/MUTO Tacuko は第 99 回世界 E 大会の参加記。九州大会(熊本)参加記が 2 編。来訪者の手記では Unua vo-jagho en Esperanto al Hukuoka/Eterna(KIM InHye. カラー写真がたくさん入っており印刷も美しい。

* Eskalo:川崎エスペラント会(ESKa)発行、2014 年 12 月 3 日、第 155 号(2014 年第 4 号)、B5X8 頁のうちエスペラント(E)文約 1 頁。トップ記事は入門講座「10 時間でわかるエスペラント」、その初日のシドニーからの来客、つづいて「エスペラントぐるめ会、第 101 回日本大会報告、など。

* La Movado:関西エスペラント連盟(KLEG)発行、N-ro 767, januaro 2014, B5x16 頁のうち E 文 7 頁半。巻頭記事は Universala Kongreso, 1905~ 2015 は世界大会 100 回の歴

史を振り返る。Kajero Liber-Vola (E 文) は雪舟について。対訳「大きな蝙蝠傘/竹久夢二: Granda ombrelo/trad. OKI Keimei」は 3 回で終わり。第 15 回中国・四国 E 大会について 3 人の記事。Mia impresio pri Kansajo はベトナムの同志の日本大会前後の旅行記。Monda Pupekspozicio 2014.../E. MIYOSHI と Jen Defio por poetoj/Jorge Camacho(「エスペラント俳句の作り方」の書評)は各 1 頁、E 文。

* NOVA VOJO :N-ro 513 januaro 2015, EPA(エスペラント普及会)、A5X32 頁のうち E.文 8 頁。巻頭言「ブラジルーつの印象記/木根幹博」は大本南米本部からの報告。「UK の 100 年-ちょっと小路へ(1)」は「1905 年、-- 第 1 回世界 E 大会のころ」。当時の Esp-ujo, 日露戦争中の英国・ロシア関係など。「Kaprica mona-

ta skribo 1:月刊・カブリーツァ(その 1)/奥脇俊臣」は 11 月他界した吳清源と導師(出口王仁三郎)との対局(1953 年 4 月)などについて。「RAKONTOJ EL OOMOTO/大本物語 6」(対訳)は「大本とはなんですか?」で始まる大本の開祖の歴史。Kurso por EPA kvina-grado に姓名のローマ字表記についての文部科学省、国語審議会、外務省の見解が出ている。

* Sferilo: カリフォルニア州北部からオレゴン州の一部を組織範囲とする SFERO(San Francisco Esperanto Regional Organization)の機関誌、第 493 回月例会(2014.12.6)予告号(電子受信) SFERO についての説明文は英語、例会関係記事はエスペラント、各地活動報告、行事予告は英語。12 月例会内容(予定)は:新会員・来客紹介、ウルグアイ報告、Pasporta Servo による旅行報告、など。

La unuafoja eksterlanda vojaĝo! (2)

Skribita de OMO

• Pri kontrolo de pasporto:

Finfine la eniron al IRANO! Unue ni devas ricevi la kontrolon de la pasporto. Troviĝas sep aŭ ok pordoj. Ŝajne kvar por irananoj kaj tri por eksterlandanoj. Sed uzataj pordoj estas du por irananoj kaj nur unu por eksterlandanoj. Ni bezonos ĉirkaŭ unu horo por trapasi

la pordon, nia akompananto supozas. Antaŭ nia grupo vicstaras ĉirkaŭ dudek personoj. Mi prove kalkulis la tempon trapasi ĝin por unu persono. Tio estis ĉirkaŭ tri minutoj. Mi devas senpacience atendi, mi pensis. De tempo al tempo du, tri personoj vizitas la vitritan budon de la kontrolisto kaj ili salutas reciproke sin kisi kaj babilas iom da tempo. Dum tiu tempo ni devas sole atendi. Iom da tempo pasis. Ŝajne alvenis la sekvanta aerplano. La pasaĝeroj svarmis ĉirkaŭ ni kaj ili alkuris interpuŝe al la pordo por la eksterlandanoj, ignorante nian violinion. La kontrolisto aŭ aliaj oficistoj neniel detenas ilin, kvazaŭ neniam problemo okazus. Dum kelka tempo interpuŝiĝo okazas ĉe la pordo. Tiam inter ili krieganta voĉo aŭdiĝis. Mi eksciis post momento, ke la voĉo estis tiu de ekspolicano iraka kaj interpuŝiĝantaj homoj estis preskaŭ ĉiuj irakanoj, kiuj intencas labori en IRANO. Kvankam la interpuŝiĝo ne finiĝis, tamen oficistoj aŭ policianoj finfine venis kaj forigis ilin. Kaj post kelka tempo la dua pordo estis malfermita. Tial la interpuŝiĝintaj homoj alkuris al la dua, kaj ili eliris la kontrolejon pli frue ol ni. Kvankam tia konfuzo okazas, la kontrolistoj tute indiferente kaj ordeme laboras. Kaj ni bezonis du horojn por la trapaso.

Koncerne al Japanio mi trapasis la kontrolejon nur dek sekundojn.

(Daŭrigota)

LA GEOPARKO LAGO Tôya kaj Monto Usu (2)

洞爺湖有珠山ジオパーク(2)

Sawaya Yûiti

(Noto de la redaktanto)

前号からの続きです。内容は次の通り

<木の実橋>

<アパート遺跡(もと桜ヶ丘団地)>

2-3 西山山麓火口散策路

2-3-1 <西新山沼>

2-3-2 <国道交差点と隆起し断層化した町道泉公園線>

2-3-5 <第1展望台>

2-3-6 <第2展望台>

2-3-10 <洞爺幼稚園>

3 昭和新山誕生

4. 1977-78年有珠山噴火

<La ponto Konomi>

La ponto Konomi de la nacia vojo n-ro 230 estis konstruita sur la rivero Nisiyama. La 8an de aprilo, 2000, varma kotfluo elfluinta el la kratero Konpira enfluis en la nacia vojon n-ro 230. La varma kotfluo glitemalsupreniranta la deklivon elfluis el la kanalo farita kontraŭ kotfluo. (La kanalo estis konstruita tiel ke ĝi protektu la bordojn kaj evitu akumuligon de koto kaj sablo per betonigita riverujo.) La kotfluo fine enfluis en la riveron Nisiyama. Iom post iom la rivero estis plenigita de la kotfluo. Finfine, inter antaŭtagmeze de la 9a kaj antaŭtagmeze de la 10a de Aprilo, la ponto Konomi kaj la ponto Konpira de la urba vojo estis fluigitaj kaj la varma kotfluo inundis loĝkvartalon en la okcidento de la strato Tôyako-onsen. Vi povas vidi la ruinigitan ponton proksime de la eksa municipa banejo. La ponto estis fluigita 100 metrojn malsupren. (Volu vidi 5)

<Publika Apartamentaro>

En la erupcio de la jaro 2000 varma kotfluo kreiginta el apud la

kratero de Monto Konpira damaĝis la okcidentan parton de la strato de Tōyako-onsen. El la tri 5-etaĝaj publikaj apartamentaroj starintaj antaŭ la erupcio estas konservita kaj ekspoziciita unu apartamentaro, kiu estis la plej proksima de la kratero kaj la plej damaĝita de la kotfluo kaj elŝpruciigitaj vulkanaj bomboj. Ĝi estas tiel pura, ke kiam oni rigardas la konstrajon el la flanko de la lago Tōya, oni neniom dubas, ke homoj ankaraŭ nun loĝas tie.

La unua etaĝo de la apartamentaro estas komplete plenigita de la kotfluo, do la konstruaĵo nun aspektas kvazaŭ 4-etaĝa. La verando de la dua etaĝo ĉe la angulo estas komplete disrumpita kaj restas granda frotvundo sur la ekstera muro. La forfluita ponto Konomi koliziis kontraŭ tiu parto de la apartamentaro. Elŝpruciigitaj vulkanaj bomboj kaj pirokrastaj rokoj falis sur la apartamentaron kaj balustradoj de verandoj estis kurbigitaj, fenestroj disrumpitaj, kaj eksteraj muroj damaĝitaj.

Nun 12 jarojn post la damaĝo, ĉirkaŭ la konstruaĵo kreskas herboj kaj arboj, eĉ en ĉambroj sur la 5a etaĝo kaj sur la tegmento.

2-3 La vojo por promeni en la montpiedo de Nisiyama kaj la krateroj

2-3-1 <Lageto de Okcidenta Nova Monto (Nisi-sinzan Numa)>

La erupcioj de la jaro 2000 formis lageton en la mezo de du-kolona nacia vojo n-ro 280. La vojo ligis la urbeton Tōyako-onsen kun la marborda distrikto. Kiam komenciĝis la erupcio, kreiĝis nova vulkana kratero antaŭe de la vojo, kaj la tero elstariĝis ĉirkaŭ la kratero kaj ekŝvelis ankaŭ flanken, ĉar ekformiĝis kriptokupolo, kies lafo ne montris sin el la tersurfaco. Pro tio parto de la descenda vojo kontraŭe fariĝis ascenda vojo, kaj formiĝis tereno en la formo de malgranda baseno. En la baseno akumuliĝis akvo fontinta el sub la tero kaj tio faris lageton. La amplekso de la lageto dependas de sezona ŝanĝiĝo de kvanto de la fontanta akvo. La akva rando de la lageto iam atingis ĝis la barilo, dum foje la lageto komplete sekigis. La tero estis puŝita kaj kuntiria, pro tio asfalta pavimo de la vojo trans la lageto bloke glitis aŭ interpuŝiĝis kaj rompe kurbigis.

2-3-2. <Krucigo de la nacia vojo kaj la vojlinio Izumi-parko >

El la nacia vojo, kies parto estas jam lageto, volu rigardi trotuar-randaĵon kaj asfalton de la ŝoseo kondukanta al la vojeto por promeni. La pavimo nenature ŝvelas ĉe la limo kun trotuar-randaĵo.

La blanka barilo de la trotuaro serpentumas. La elektraj dratoj inter elektraj fostoĵoj pendas. Tiujn ĉi kaŭzis, ke la tero estis puŝita kaj kuntiriĝis pro la ŝvelo de kriptokupolo en la erupcioj de 2000. Tiuj drastaj ŝanĝoj okazis ne dum momento. La ŝanĝo progresis iom post iom dum la erupcioj dum ĉ. 5 monatoj.

2-3-3 <Vojo ŝrumpiĝinta kaj inklininta>

Estas rand-ŝtonoj leviĝantaj ĉe la junto. La tero ŝrumpis sed la ŝtonoj ne povis. Ankaŭ la blanka barilo kurbigis tie kaj ĉi tie. Kiam vi piediras sur la asfalta ŝoseo, vi tuj rimarkos, ke la vojo klinas unuflanken.

2-3-4. <Vojo longiĝinta>

Kiam vi iras sur la vojo al la vulkana kratero, vi vidos lokon, kie la pavimita vojo aspektas falinta en ŝtupara formo. Ĉi tie okazis ŝanĝiĝo, ke la tereno ŝveliĝis kaj samtempe estis longigita, kiam la kriptokupolo leviĝis. Pro tio la tero glitis iom post iom en ŝtuparan formon kaj formiĝis grupo de etaj fendoj kaviĝintaj en la centra parto. Tio estas miniatura versio de ŝanĝiĝo de tenera formo, nomata "kavejo". La trotuaro same transformiĝis kiel la ŝoseo, sed ĝi estis ebenigita, kiam ĝi estis pavimita per asfalto por konstrui la promenon voĵeton por turistoj.

2-3-5. <La unua rigardejo>

Vulkanaj erupciaĵoj amase falis sur la krutan deklivon kondukantan al la unua rigardejo, kovris la nacian vojon kaj kaŝis ĉe la spuron de la vojo. Nur disrompaĵo de elektra fosto atestas, ke tie estis la vojo. Amasfalo de vulkanaj rokfragmentoj kaj cindro kaj altiĝo de la temperaturo de la tero post la erupcioj velkigis la aleajn pinarbojn kaj arbojn ĉirkaŭ la vojo, sekve arboj nun malmultas ĉi tie.

Ĉe la unua rigardejo vi vidos oblongan krateron N-C tuj antaŭ la okuloj. De la barilo kun informa ŝildo vi volu rigardi la surfacon de la tranĝa muro de la kratero N-C. Kiam vi atente rigardos la muron, vi trovos maldikan dukton elstaranta. Tiu ĉi estis akvodukto enterigita laŭ longe de la vojo antaŭ la erupcio.

Antaŭtagmeze de la 31a de marto en 2000, tuj antaŭ la ekerupcio, abrupte la akvo ne venis en la urba distrikto apud la lagbordo de la urbeto Tôyako-onsen, ĉar akvodukto rompiĝis proksime de la nuna unua rigardejo, kaj la vojo estis superakvita. Por ripari la akvodukton ĉi tien venis ŝovelmaŝino kaj laboristoj. Kiam ili laboris

por riparo, erupcio komenciĝis kaj la laboristoj devis tuj fuĝi, forlasante la pezan maŝinon, kiu ne povis rapide moviĝi. La nevenon de akvo kaŭzis, ke la tero ekŝvelis kaj tio maljuntis la akvodukton ĉe la junto.

Nun someraj herboj kaj arboj kreskas altaj, kio baras al ni rigardi la ferlasitan maŝinon kaj la kraterojn.

En la kratero N-B aktiveco de tervarmo estas alta kaj tio malhelpas reviviĝon de la vegetalaro. Tie ankoraŭ daŭras la stato, ke neĝo ne kovras la krateron eĉ en vintra neĝfalo, kvankam jam pasis dek kelkajn jarojn ekde la erupcio.

2-3-6. <La dua rigardejo (la supro de kriptokupolo)>

Tuj antaŭ la dua rigardejo, kiu situas en la plej alta loko sur tiu ĉi promenejo, nur malmulte da someraj herboj kreskas. Tio montras, ke la temperaturo de la tersurfaco estas ankoraŭ multe pli alta ol tiu de la lokoj, kie someraj herboj dense altkreskas. Blanka vaporo leviĝas el la fendo de la tero. Nun ne leviĝas blanka fumo el la kratero N-B.

Rompita kuko-fabriko estas vidata trans la kratero N-B. Dek kelkajn jarojn post la erupcio vegetalaro ĉirkaŭ la ruino de la kuko-fabriko rimarkinde revenis kaj nun arboj kaj someraj herboj altkreskas. Post kelkdek jaroj formiĝos densa arbaro ankaŭ ĉi tie kiel en la montpiedo de Syôwasinzan. Estas rekomendite, ke vi revizitu tiun ĉi lokon post iom sufiĉe da tempo.

2-3-7. <La kratero N-18>

Kiam vi malsupreniros la krutan ŝtuparon de la promenejo, vi atingos la randon de la kratero N-18. Vi povas vidi spuron de la ruinaĵoj de du-etaĝa ligna apartamentaro, kiun piroklasta surĝo faligis kaj subterigis per vulkana cindro k.a.. La krutaĵo ĉesis kreski kaj la deklivo de la nestabila krutaĵo komencis defali kaj aperis ruinaĵoj de la disrompita apartamentaro el la deklivo. La ruinaĵoj iom post iom defalis malsupren sur la piedon de la deklivo. La vulkana aktiveco de la kratero finiĝis dum mallonga tempo kaj nun iom post iom revenas vegetalaro.

2-3-8. <Rompita luksa privata domo>

Kiam vi iros antaŭen laŭ la descenda promenejo de la dua

rigardejo, vi vidos ruinan de luksa privata domo kun granda ĝardeno. Nun en la ruino arboj kaj someraj herboj dense kreskas. Apud ruiniĝinta domo estas rustiĝinta aŭto rompita de la erupcio, posedita de la eksa mastro de la domo.

2-3-9. <La levita kesto-kulverta>

La nuna promenejo estis farita por facila promenado per elkavigo de deklivoj de fendoj kaj per taluso. Antaŭ la erupcio la urbeto vojo, Linio Izumi-parko, transiris valetan sur tri kuplitaj kesto-kulvertoj. En la iom-post-ioma formiĝo de la fendego, la kesto-kulvertoj disiĝis ĉe la plej malforta kunligo. Unu el la kesto-kulvertoj estis levita sur la tersurfaco pro leviĝo de la tero. La tubo elstaranta el sur la kesto-kulverta estas akvodukto. Alia kesto-kulverta restas sub la promenejo.

2-3-10. <La Infanĝardeno Tôya>

En la erupcioj en marto de 2000, komence krateraro malfermiĝis sur la monta flanko de sennoma kriptokupolo en la montpiedo de Nisiyama. La erupcioj superŝutis la Infanĝardenon Tôya kaj ĉirkaŭajn kampojn, situantajn 600 metrojn for de la krateroj, per multe da pirokrastaj rokoj, sed neniam da cindro disfalis tien, ĉar tiam vento blovis de la mara flanko al la lago Tôya, sekve la supren elŝprucinta cindro el la krateraro estis forblovita al la flanko de la lago. Feliĉe, tiam ĉiuj homoj jam rifuĝis antaŭ la ekerupcioj kaj estis nenioj vunditoj aŭ mortintoj. La promenejo ĉirkaŭas la infanĝardenon, tiel ke vi povu rigardi la situacion de la domo kaj ĝardeno. Unue vi rimarkos multajn truojn kaj rompitaĵojn de la muroj kaj tegmento de la domo, kiuj estis faritaj de la pirokrastaj rokoj koliziitaj kontraŭ la muroj. Iuj pirokrastaj rokoj restas enŝoviĝintaj en la muron. Estas ankaŭ buso kaj aŭto rompitaĵoj de la alflugintaj pirokrastaj rokoj. Ĉiuj pirokrastaj rokoj falintaj ĉirkaŭ la domo estis jam forigitaj, sed en la herbaro ekster la palisaro ankoraŭ kuŝas tiamaj multaj pirokrastaj rokoj, grandaj kaj malgrandaj. La tero nun deklivas ĉ. 3° pro la leviĝo de la kriptokupolo.

Nun kreskas multaj arboj, arbetoj kaj herboj en kaj ĉirkaŭ la domo.

Daŭrigota

2015年度 第2回北海道エスぺラント連盟委員会 議事録

日時：2014年11月16日（日） 14:00～15:00

場所：札幌エルプラザ2階 会議コーナー

出席者：横山、後藤（義）、後藤（純）、阿部、川合（記録）

【組織】

- ・新規加入者：なし。
- ・退会者：なし。
- ・未納者：14名。機関誌に振込用紙同封。

【財政】

- ・とくになし（阿部）。

【広報】

- ・HP：アクセス数71 462件（2ヶ月前より+242）になった（横山）。
- ・メールマガジン：9月26日を最後に、発行していない（横山）。
- ・北海道ザメンホフ祭の案内、道新に掲載依頼をしている（後藤（義））。

【教育・研究】

- ・SES：月曜例会で『ロビンソン＝クルーソー』、土曜例会で『華岡青洲の妻』を読んでいる。『華岡～』はそろそろ終わる。次は『Homoj de Putin』を読む予定。現在、新人2人参加中（後藤（純））。
- ・個人的に、JEJ（日本青年E連絡会）のLINEを用いた輪読に参加している（横山）。

【機関誌】

- ・11月16日、「Heroldo de HEL」第156号（20頁）、90部印刷・発行。E文での投稿が多くなった。
- ・次号は次回委員会時発行。

【年間計画】

【地下歩行空間イベント】11月23日（日）

- ・今回の発表形式は「ミニシアター」。映像を流しつつ、人がナマで出て説明する。川崎エスぺラント会等の制作による動画その他を編集したものを映像材料として使う（横山）。

※事前説明会に出た横山委員より会場の配置や時間割について説明あり。
上記映像材料を試しにパソコンで再生して、出席委員全員で観た。

【北海道ザメンホフ祭】12月8日(月)

前回委員会での決定から大きな変更はなし。

【次回委員会】

2015年1月25日(日)。

【編集後記／Redaktanto parolas】

* 行事報告や写真など、原稿ありがとうございます。
* 前号からの長文の寄稿が(エスペラント文)2編あったし編集の終わるころ原稿が入ったりで 原稿をやりくりして対応しましたが「洞爺湖有珠山ジオパーク」と La unuafoja eksterlanda vojaĝo! は今回も Daŭrigota(次号へ続く)、第3回に続きます。今までちょっと例がなかったこと。みなさん、この記事に限りませんが 読んでご意見、感想など、お願いします。筆者も反応があれば張合いが出るでしょう。
* OMO という筆者名が出ています。知る人ぞ知る(?) SES-ano です。無記名の原稿も1件ありましたが「名をかくしたい」とは聞いてないので Red. の判断で名を入れました。原則は本名ですが plumnomo も自由です。
* 苫小牧での北海道エスペラント大会での講演など、エスペラントにも理解、協力をいただいていた駒澤大学の篠原昌彦教授は今回定年を迎え最終講義が行われます。教授からみなさんによろしくと連絡がありました。
日時：2015年2月1日(日)午後2時～4時
会場：苫小牧市文化会館ホール
講義：大正デモクラシーと 小林多喜二の文学世界
資料代：100円

北海道エスペラント連盟 会費/年
正会員 3000円、 青年会員(26歳未満) 1500円、
購読会員 2000円、 家族会員、失業者など割引 1000円

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO	北海道エスペラント連盟
*Redaktas la Organo Fakto de HEL	*編集：連盟機関誌部
c'e HOSIDA ACUSI	〒053-0844 苫小牧市
Miyanomori 2-18-18, TOMAKOMAI	宮の森町2丁目18-18
053-0844 JAPANIO	星田 淳 方
TEL-FAKS: 0144-74-2539	Retadreso: hosidaacusio@kir.biglobe.ne.jp
*Sekretario: KAWAI Yuka	*事務局：川合由香
N-ro 100, Simin-Katudo-Sapoto-Senta	〒060-0808 札幌市北区
Sapporo L-Plaza 2F, Kita 8 Nisi 3	北8条西3丁目札幌エルプラザ
Kita-ku, Sapporo, 060-0808 Japanio	市民活動サポートセンター レターケースNo.100
TEL-FAKS: 0126-35-7153	
Retadreso: kunespere@olive.plala.or.jp	
*TTT-ejo : http://www.hokkajda-esp-ligo.jp/jp/index/index-j.htm	
*Pos'tg'irkonto (郵便振替) : 02700-6-17075	

親友であり同志中田實さん逝く

長年の北海道エスプラント連盟会員、中田實さんが亡くなりました。突然の訃報に心を無くしています。昨年の暮れ、12月23日、75歳の人生に終止符を打ったのです。

ご家族は年の瀬でもあり、他の人に迷惑をかけまいとの心遣いから誰にも知らせず、密葬で中田さんを天国へ送り出したそうです。私たちが知り得たのは年が明けて、1月の半ば過ぎのことでした。

中田さんは何事にも熱心で決して手を抜く事はしないお方でした。目立つ事を嫌い、疑問があれば解決するまで追求し、自ら納得するまで諦めない頑張り屋でした。木々の葉が色付き始めた浅い秋、中田さんから1本の電話を頂きました。病を得て床に伏しているから、SESの例会に出るのは難しくなったとの事でした。声にも張りがあり、楽しげな会話だったから、中田さんの氣力を持ってすれば間もなく快方に向かうだろうと軽く考えておりました。日常の雑事に気をとられ、お見舞いまで失礼し、今は慙愧に耐えません。

でも中田さんを思い浮かべるとまず、にっこり笑ってSaluton!と挨拶を交わす場面しか出てきません。人の心を和ませる独特の雰囲気をもっているお方でした。横浜のエスプラント世界大会のときも、ボランティアを買って出て、あなたの暖かいハートで世界のエスプランチストを包み込み、横浜UKを成功に導いた力になったと私たちは疑いません。本当に有難うございました。

大本教にも入信され、迷いのない生活を送られていましたね。感心し憧れ念^のさえ持って見ておりました。信仰心の薄い私には、見習わねばと思いながら実践は遠くにありました。

中田 實さん安らかに眠り下さい

私たちも精一杯頑張りますから

2015年1月25日
北海道エスプラント連盟 後藤義治